

トルコギキョウ R T F 育苗における本葉 2 対半展開以降の昼温の影響

トルコギキョウ育苗では、本葉 2 対半展開以降のステージで育苗期間が 1 週間を超える場合は、昼温を 25℃以下とすることで昼温 28℃より生育速度と茎伸長を抑えることが可能で、定植後の主茎節数と切り花長の確保に有効である。

農業研究センター農産園芸研究所花き研究室 (担当者: 工藤陽史)

研究のねらい

これまでにトルコギキョウでは、涼温下で育苗し花芽分化ができる態勢にある (Ready to Flower, 以下 R T F と省略) 苗を定植することで、生育が揃うことを明らかにしている (農業の新しい技術 No. 650 (平成 24 年 5 月))。生育速度を抑制して苗の老化の防止かつ活力のある R T F 苗を生産することを目的に、慣行苗 (本葉 2 対半展開ステージ) 以降の育苗における昼温が苗の生育、定植時苗の形質および定植後の生育、花芽分化、切り花形質に及ぼす影響を明らかにする。

研究の成果

1. 本葉 2 対半展開以降のステージで育苗期間が 1 週間を超える場合は、昼温を 25℃以下とすることで昼温 28℃より生育速度と茎伸長を抑えることができる (表 1、図 1)。
2. 本葉 2 対半展開から 2 週間で昼温 25℃以下で育苗すると、昼温 28℃で育苗した苗より主茎の節数が多く、発蕾日、開花日、収穫日が遅くなる (表 2)。
3. 本葉 2 対半展開から 2 週間で昼温 25℃以下で育苗すると、昼温 28℃で育苗した苗より主茎長と切り花長が長くなる (表 2、表 3)。

普及上の留意点

1. 「ボレロホワイト」 (中早生・八重咲き) を用い、吸水種子の湿潤低温処理を 10℃、暗黒下、35 日間、育苗を平成 24 年 3 月 28 日～5 月 25 日、定植を平成 24 年 5 月 25 日にビニルハウスに行った季咲き作型での試験結果。
2. 本葉 2 対半展開～定植まで (平成 24 年 5 月 11 日～25 日) の育苗時における日中 (9～18 時) 気温の平均値は、試験区 25℃が 24.9℃、試験区 28℃が 28.3℃で差は 3.4℃、夜間 (19～8 時) 気温の平均値は両区とも 18.6℃での試験結果。
3. R T F 苗については、農業の新しい技術 No. 650 (平成 24 年 5 月) を参照。

表 1 本葉2対半展開以降の育苗時昼温が生育に及ぼす影響

調査項目	試験区 (育苗時昼温)	育苗		
		試験開始時 5月11日	1週間後 5月18日	定植時 5月25日
本葉展開葉数 (枚)	25℃	2.5	3.2	3.9
	28℃	2.4	3.2	4.1
	F検定	ns	ns	**
草丈 (cm)	25℃	-	2.3	3.3
	28℃	-	2.3	4.3
	F検定	-	ns	**
茎長 (cm)	25℃	-	0.2	1.1
	28℃	-	0.3	1.8
	F検定	-	*	**
抽だい節数 (節)	25℃	0	1.0	1.1
	28℃	0	1.3	1.9
	F検定	ns	*	**
抽だい株率 (%)	25℃	0	41.7	100
	28℃	0	58.3	100

n=36

F検定 ** : 1%水準で有意 * : 5%水準で有意 ns : 有意差なし



昼温28℃区

昼温25℃区

図 1 定植時の苗

表 2 本葉2対半以降の育苗時昼温が主茎頂花着花節位および発蕾・開花・収穫日と切り花長に及ぼす影響

試験区 (育苗時昼温)	主茎頂花 着花節位 (節)	定植～発蕾 までの日数 (日)	定植～開花 までの日数 (日)	収穫日 (月日)	切り花長 (cm)	主茎長 (cm)
25℃	8.3	29	63	7月31日	66.6	38.2
28℃	7.8	26	61	7月28日	62.4	34.6
F検定	**	**	**		**	**

n=24

主茎頂花着花節位 : 収穫時の抽だいしている節数

切り花長 : 切り口から開花小花先端までの長さ

F検定 ** : 1%水準で有意 * : 5%水準で有意 ns : 有意差なし

表 3 本葉2対半以降の育苗時昼温が出荷時の規格割合に及ぼす影響 (%)

試験区 (育苗時昼温)	切り花規格 (3花3蕾以上)				
	70cm	65cm	60cm	55cm	50cm
25℃	25.0	44.4	27.8	2.8	0
28℃	5.5	27.8	50.0	13.9	2.8

n=24